

04-1 遠景と色彩

遠景における色彩の見え方

遠景からは、周囲の景観とともに建築物の全体像やシルエットが感じられます。色彩について、個々の配色や材料の質感までは確認しにくいですが、全体の雰囲気や周囲・背景などとの対比（特に明度対比）などが強く意識されます。

 色彩計画のポイント

色彩計画の初期段階では、周辺の広域的・骨格的な景観と、計画対象との関わりを考える必要があり、特に景観の特徴をつくり出している地形や水、緑などの自然的環境や、都市としての歴史的蓄積に対して、違和感なく収まる色彩の方向性を検討することが必要になります。



開放感のある空との関わり



川や斜面緑地などの自然との関わり

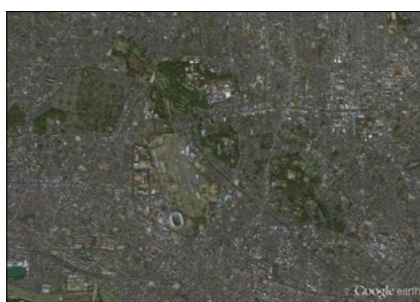


文化財庭園の緑や周囲の建築物との関わり



先行して整備された街並みとの関わり

色彩計画のための立地特性の確認



三鷹市、調布市にまたがる野川周辺の国分寺崖線

●周辺の自然的環境を読み取る

- ・計画地周辺の景観を広域的なスケールで俯瞰し、地形や地勢、植生、水系など、計画対象をとりまく大きな景観要素の色調を把握します。

●周辺の歴史や都市の蓄積を読み取る

- ・計画地周辺の歴史をふまえ、尊重すべき景観要素を見極めます。
- ・また、都市化が進み周囲を高層建築物に囲まれた立地では、時間をかけて蓄積されてきた都市のまとまりを意識し、その色調を把握します。

●周辺への収まりを考える

計画対象となる建築物と周辺の景観要素との対比が強くなると、対象の存在感は高まりますが、周辺との協調性は見出しにくくなります。

特に明度の対比は遠方からも感じられやすく、周辺の街並みよりも規模が大きい建築物については、極端に明るい色や暗い色を避ける配慮が必要になります。

☑ 開放的な水辺の立地（臨海景観基本軸等）では…

明るく開放的な水辺や空との対比が強くなりすぎないように配慮し、基調となる色彩は高明度、低彩度色とすることが必要です。水辺や空を引き立たせる色彩計画となるように配慮しましょう。

☑ まとまった緑のある立地（緑地系景観基本軸等）では…

落ち着いた色調の緑との対比が強くなりすぎないように配慮し、基調となる色彩は中明度、低彩度とするなどの工夫が必要です。

☑ 歴史的景観資源に近接する立地（文化財庭園周辺等）では…

地域の歴史を伝える大切な資源の存在感を希薄化させないよう、基調となる色彩は低彩度色としたり、資源の色彩や素材を継承するなど工夫しましょう。

☑ 都市整備や都市再生が進む立地では…

周辺の建築物と協調しながら街の特徴が感じられる色彩景観が生まれるよう、基調となる色彩は周囲の建築物とできるだけ色相や明度、彩度を揃えるなどの工夫が必要です。

☑ 基調色の明度設定の考え方

背景となる広域的・骨格的景観要素に馴染む明度域を基本に外観の色彩を整える必要があります。

- ・ 明るい色彩は、開放的な空や水辺には馴染みますが、明るすぎると緑豊かな立地では突出して見えることがあります。
- ・ 暗い色彩は、開放的な場所では圧迫感や威圧感を与える要素になりますが、適度に明るさを抑えると緑豊かな立地に馴染む色彩になります。明度が低くなると反射率が極端に低下し、暗い印象が強くなります。



建築物：明度 9



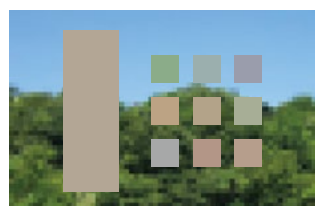
建築物：明度 8



建築物：明度 7.5



建築物：明度 7



建築物：明度 6



建築物：明度 5



建築物：明度 4



建築物：明度 3

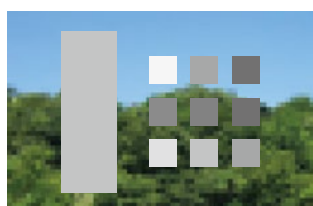
☑ 基調色の色相・彩度設定の考え方

広域的な景観の中で過度な存在感を主張しないよう、落ち着いた暖色系の色相や低彩度色などを基本に考えましょう。

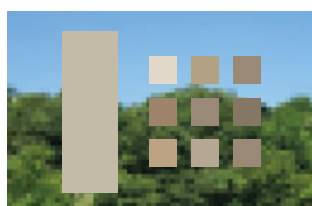
- ・ 派手な色彩や寒色系の色彩を基調とした外観は、周囲の街並みや緑の中から突出して見えることがあります。



建築物：寒色系(彩度 2 程度)



建築物：無彩色(彩度 0)



建築物：暖色系(彩度 1~2 程度)



建築物：暖色系(彩度 4~6 程度)

04-2 中景と色彩

中景における色彩の見え方

中景からは、建築物の形態的なデザインと色彩の使い分けや配置関係などが意識されます。形態と色彩との適切な連携や、使用する色彩相互の調和が大切な視点になります。また、周辺との関係の中では、スケール感の調和や立地特性に応じた適切な色相、色調の選択がなされているかどうかが大切です。

☑ 色彩計画のポイント

外観の基本デザインを検討する段階では、周辺の街並みとの関わりの中で、場所にふさわしい色相や色調が選定されているか、そしてその色彩が周辺の街並みに圧迫感や威圧感を与えていないかなどの検証をする必要があります。建築物の外観には多数の色彩や素材が用いられますが、それらの調和により外観の印象を整えることも大切です。



色彩計画のための立地特性の確認



● 周辺の街並みの特性を読み取る

・ 計画地周辺の街区や沿道を構成する建物用途、街区や道路の構成、緑地の配置状況などから、周辺の街並みの特性を把握します。

● 街並みを構成する建築物の特性を読み取る

・ 街並みの特性に沿って、周辺の建築物の規模や高さ、色彩や材料、形態などの特徴を整理します。色彩については、周辺の街並みを踏査し、色相、明度、彩度の三属性を手がかりに整理すると特徴がわかりやすくなります。

計画地周辺の色彩把握例

●周辺との色彩調和を考える

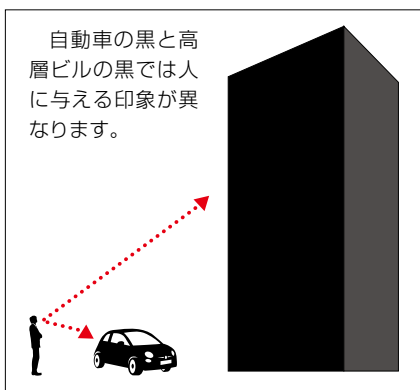
色彩調和には様々な方法がありますが、心地よい風景づくりの視点に立って建築物の色彩を考えると、周辺と対立するような色彩ではなく、周辺になじむ色彩を用いることが基本になります。色彩計画を進める前に周辺の景観を把握し、その傾向に沿った色彩をベースに、素材や分節化の視点も加味して、基本的な配色を組み立てましょう。



暖色系の色相でそろった暖かく落ち着いた雰囲気のある街並み



高明度・低彩度の色調でそろった開放的な雰囲気のある街並み



☑ 大面積でN4を用いるような配色は避けましょう

低明度色は周辺の景観に圧迫感を与えやすく、特に北側に位置する建築物などに対しては自然光の回り込みを妨げる要素にもなります。

また、暖色を中心に蓄積された街並みの色の中で、無彩色は無味乾燥とした印象を与えやすいものです。

周囲の状況を十分に加味し、その地域にふさわしい明度や彩度の選定を行うことが必要です。

なお、明度4は多くの地域で外壁基本色の明度下限値となっています。色彩基準に抵触しないよう、使用に際しては色彩管理にも十分な留意が必要です。

☑ 周辺の街並みと色相やトーンをあわせ、一体感をつくる

景観は長い時間をかけて蓄積されていくものです。建築物単体のデザインではなく、計画地周辺の建築物の景観を加味し、その中に違和感なく収まるような色彩を基本とすることが大切です。周辺の街並みと色相やトーン（色調）をそろえ、街の一体感や場所の特性がより洗練されるような色彩を検討しましょう。

☑ 周辺への圧迫感、周辺からの突出感を低減する

建築物は、身の回りの服飾雑貨、自動車等とは異なり、大きな面積や高さにより環境を作り出す要素です。色彩はその面積が大きくなると、その色が持つ特徴が強調される傾向があります。暗い色や派手な色は圧迫感や威圧感を与える要因にもなりますので、十分な注意が必要です。

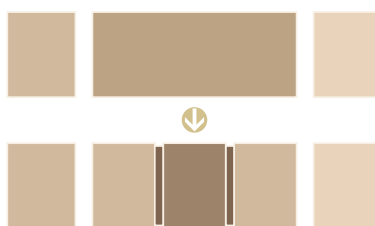
☑ 色彩や素材でヒューマンスケールの外観をつくる

建築物の形態や部材の変化をいかして色や素材を使い分けるなど、分節化によって、スケール感の逸脱を軽減することが必要です。

建築物の幅が大きくなる場合は、周囲にあわせて色や素材、形態に変化を付け、横方向の分節化を行うことが効果的です。

建築物の高さが大きくなる場合は、周囲の建築物のスケールにあわせて低層階と高層階の色彩を使い分けるなど、縦方向の分節化を行うことが効果的です。

●横的分節化：長大な印象を低減



●縦的分節化：突出感を低減



●複合的な分節化：圧迫感や威圧感を低減



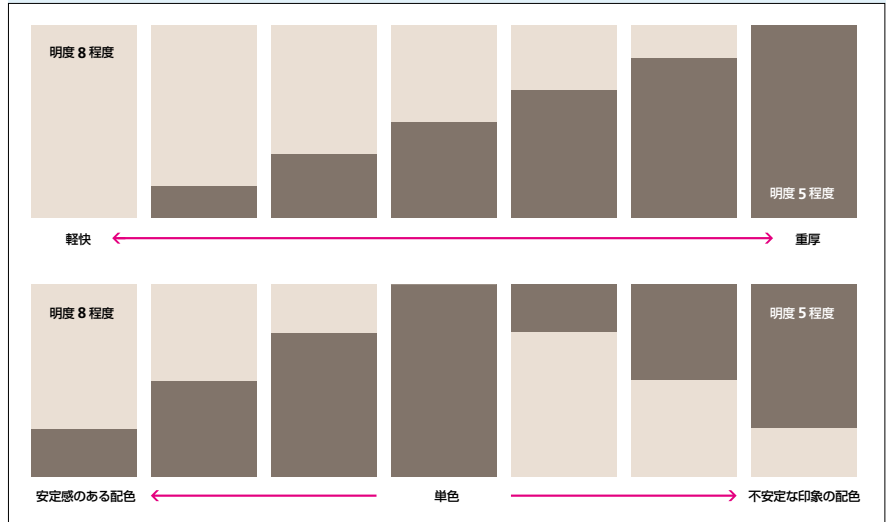


色彩や素材の重量感をふまえた安定感のある外観

✓ 安定感のある配色

明度が高い（明るい）色彩は軽快な印象を与え、明度が低い（暗い）色彩が重厚な印象を与えます。周辺との調和を考慮しながら適度な明度を設定し、イメージにふさわしい外観を計画しましょう。

建築物の外観に複数色を用いる場合、低層階に暗い色、高層部に明るい色を配置すると、安定感のある落ち着いた配色となります。



街並みの特性にあわせた色使いのポイント

立地特性の確認から読み取った街並みの特性にあわせて、場所がもつ特長や魅力を強化するよう色彩や素材を工夫しましょう。

✓ 住居系主体の街並みでは…

暖色系の中低彩度色を基調とする街並みが形成されています。建築物だけでなく外構を構成する色彩にも配慮しましょう。

Point

- ・基本色は、暖色系色相（5YR～5Y程度）、彩度3以下程度とすると周囲からの違和感が少なくなります。
- ・無彩色のみの計画や、低明度色を大きな面積で用いることは避けましょう。
- ・街並みの連続性に配慮し、スケール感を低減する工夫を取り入れましょう。
- ・相隣関係を考慮し、バルコニーの素材や透過性などに配慮しましょう。

✓ 商業系主体の街並みでは…

基壇、低層階を中心ににぎわいを連続させる工夫を取り入れましょう。道路や周辺敷地との一体感をつくり出すために色や素材、照明などを検討しましょう。

Point

- ・商業地の特性をふまつつも周辺への影響を考慮して、個性が強くなりすぎないように配慮しましょう。
- ・表の表情と裏の表情の対比が強くなりすぎないように、バックヤードのデザイン等にも配慮しましょう。
- ・見せる要素と隠す要素のメリハリを付けて色使いを組み立てましょう。
- ・季節感のあるにぎわいを創出するために、生きた植物の彩りも採り入れましょう。

✓ 業務系主体の街並みでは…

ビジネス街にふさわしい落ち着いた低彩度色をや自然石などの質の高い材料が基本となっています。特に低層階ではこうした街並みの特徴を継承することが大切です。

Point

- ・低彩度域の落ち着いた色使いを基本としましょう。
- ・モノトーンの色相を用いる場合は、周囲の建築物との極端な明度対比がおきないように配慮しましょう。
- ・前面道路や周辺敷地の状況を加味し、低層階や足元の外部空間などに用いる色彩や素材を検討しましょう。
- ・大きな敷地では、緑陰のある休憩スペースなど、来訪者が足を休めほっとする空間を創出することも大切です。また、そうした空間には積極的に自然素材を用いましょう。

✓ 工業系主体の街並みでは…

白やグレーなどのすっきりとした色彩が基本となっています。工場や倉庫などでは大きな箱形の外観を、より親しみやすいスケールに分節する配色の工夫も必要です。

Point

- ・基本色は、彩度2以下程度のグレイッシュな色彩を用いると、清潔で先進的な印象の外観になります。
- ・箱形の外観による圧迫感を軽減するため、濃淡の色彩を組み合わせ縦横の分節を図ることも大切です。
- ・企業のコーポレートカラーなどは、小さな面積、限定した部位に用いるなど、主張が強くなりすぎないように配慮しましょう。
- ・設備機器などが露出しないように遮へいするとともに、季節感を採り入れた接道部の緑化など、潤いが感じられる外構計画も大切です。